

1 学力向上推進計画

(1) 目標

<沖縄県>

長期目標：豊かな創造性を備えた持続可能な社会の創り手となる幼児児童生徒の育成
総括目標：幼児児童生徒一人一人に「生きる力」の基盤となる「新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力」を育む

<島尻教育事務所>

自ら学ぶ意欲をもち、心豊かでたくましい幼児児童生徒の育成

<南城市> 学力向上推進目標

知・徳・体の調和の取れた幼児・児童・生徒の育成
～「確かな学力」を持ち、主体的に他者と協働して夢や希望を持って生きる子～

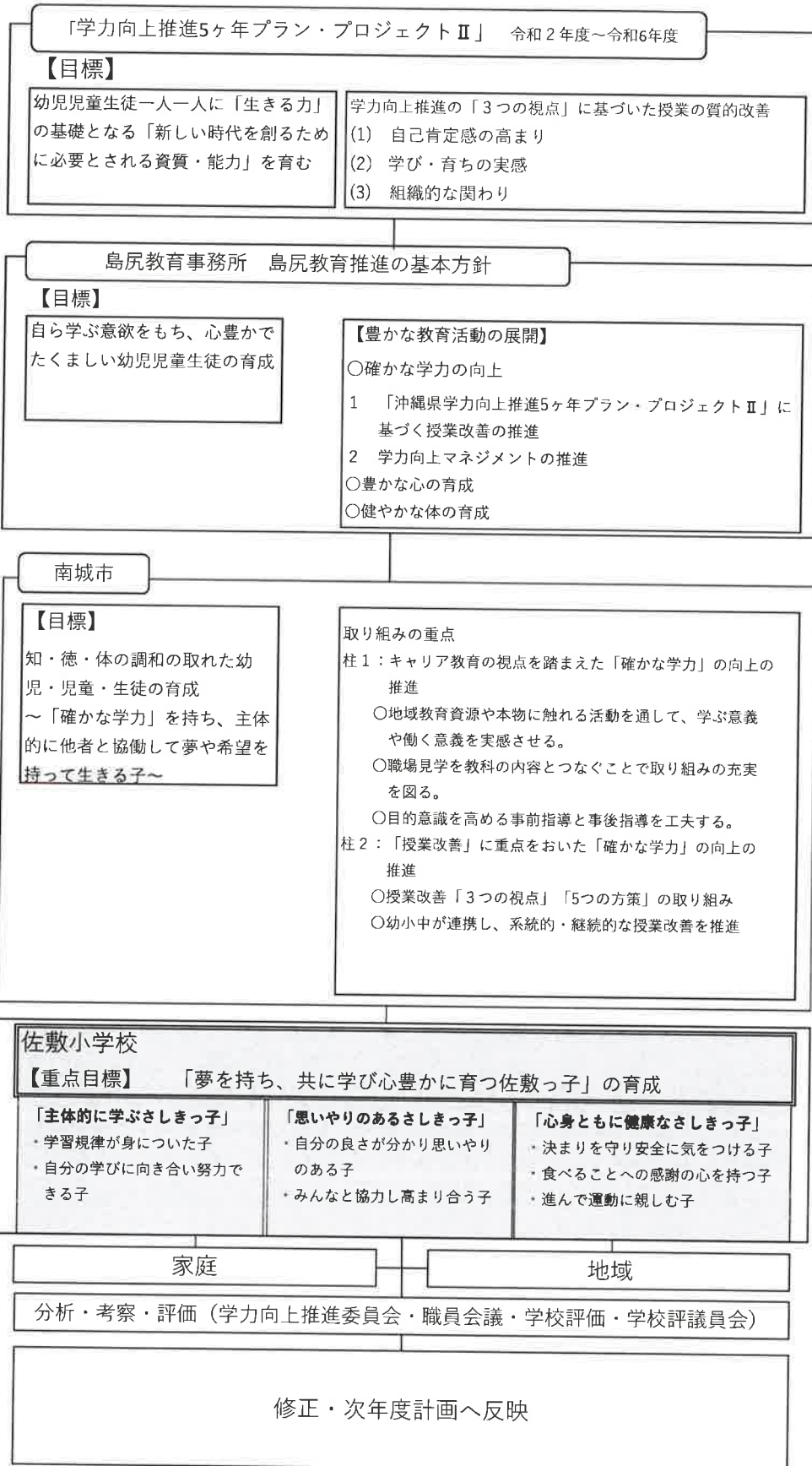
<佐敷小学校>

夢を持ち、共に学び心豊かに育つ佐敷っ子の育成

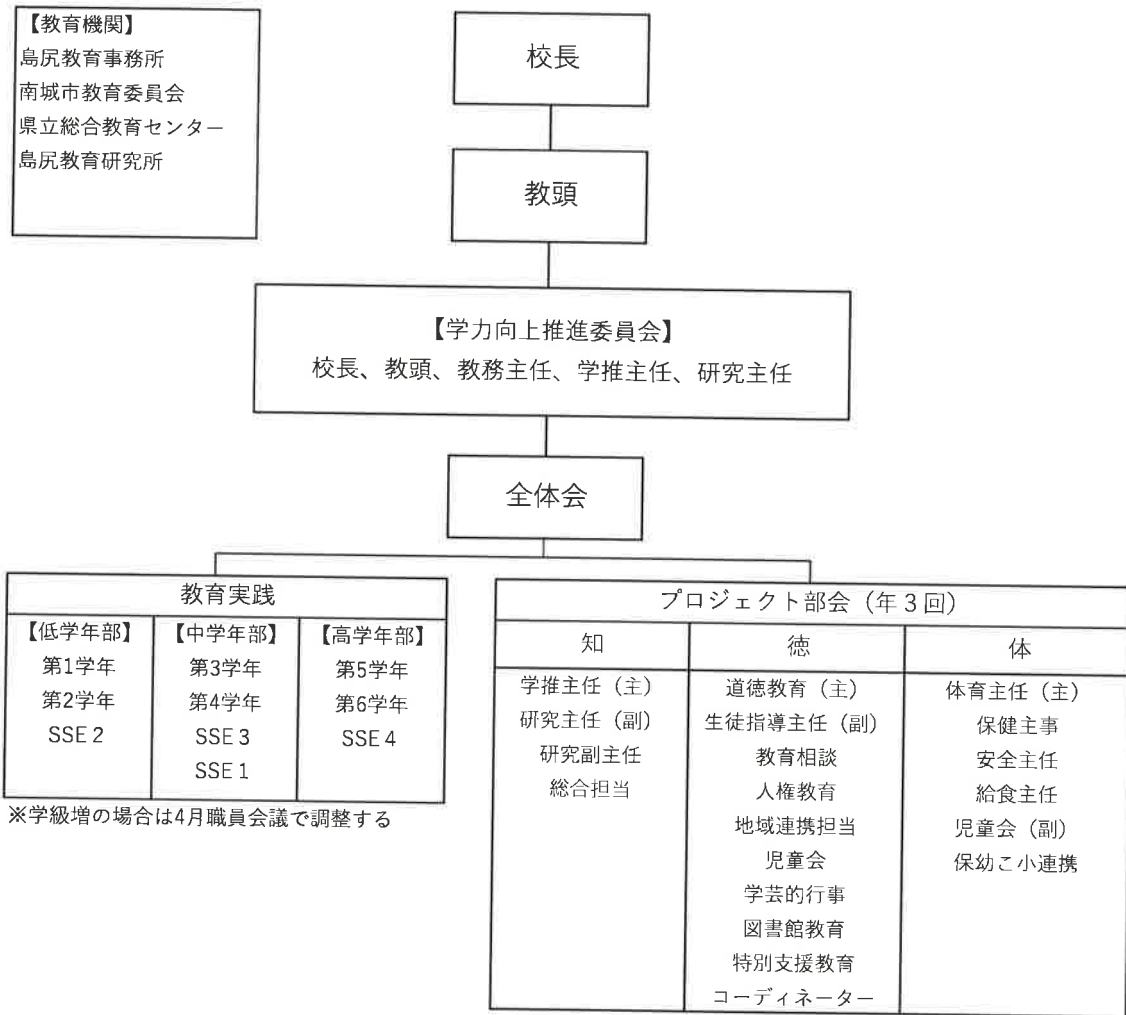
(2) 方針

- ① 「沖縄県学力向上推進5ヶ年プラン・プロジェクトII」充実期、島尻教育推進の基本方針、南城市学力向上推進計画を踏まえて計画する。(3つの視点と5つの方策)
- ② 児童の実態を把握し課題解決に向け、具体的な計画を立て実践し評価を行うマネジメントサイクルの確率を図り推進する。
- ③ 基礎・基本の内容を定着させるための学習指導を工夫改善し、基礎学力の向上に努める。
- ④ 家庭、地域との連携を図りながら授業と連動した家庭学習の取り組みや基本的な生活習慣の確率を図る。

(3) 学力向上計画の全体構想図



(4) 推進体制



※担当が重複する場合は、教頭と相談して配置を決定する。

(5) 具体的取り組み

「学力向上プロジェクトII～学びの質を高める授業改善・学校改善～方策フレーム					
方策	【視点1】 自己肯定感の高まり	【視点2】 学び・育ちの実感	【視点3】 組織的な関わり	改善ツール等	【評価方法】
方策1 日常化する 【質的授業改善】	佐敷小学校授業ベーシックの徹底			○「問い」サポ ○授業プランシート ○授業スタンダード 共通グッズ ○単元指導計画掲示	○授業ごとの振り返りの確認 (肯定的なフィードバック) ○学習ノート ○佐敷小学校授業ベーシックの進捗状況
	生徒指導の三機能を活かした授業	学んだことの意義や価値を実感させる授業	単元を見通して資質・能力を育む授業		
方策2 そろえる 【組織的共通実践】	佐敷小学校スタンダードの徹底			○さしきつ子調べ ○学校評価 (児童)	○さしきつ子調べの調査結果を図書室前掲示板にて発表する ○学校生活アンケート
	佐敷小学校スタンダードの取り組みを徹底し、育ちの過程を承認する 見とる視点、観点をそろえ、評価項目をカリキュラムマネジメントに組み込み年次更新	異到達度調査等の諸学力調査の結果を踏まえた指導			
方策3 支える 【発達の支援】	生徒指導・教育相談の機能の充実			○心のアンケート ○教育相談週間 ○キャリアパスポート ○QIUアンケート ○不登校児童生徒への支援の手引き	○心のアンケート ○学校評価 (児童、保護者、学校) ○教育相談週間 ○SSW、スクールカウンセラーとの連携
	支持的な風土をつくる学級経営の充実 (心のアンケートの活用)	確かな児童理解 (学校評価アンケート・心のアンケート・教育相談等を活用)	学びに向かう集団づくり (めあてを皆で達成しようとする学級づくり)		

方策4 見通す 【学校組織マネジメント】	授業改善・学校改善に向けた校内研修体制づくり			○学校デザインシート	○授業ふりかえりシート
	教材研究及び学年会の充実	プロジェクト部会の強化	実践に結び付く校内研の充実（公開授業）	○学校改善ループリット	○授業リフレクション
方策5 つなぐ 【学校・地域連携】	学校・家庭・地域・関係機関等との連携			○フォーカスシート	○職員アンケート
	学校・地域・家庭の連携の充実（ホームページによる情報発信等）	キャリア教育の視点を踏まえた校種間連携強化（キャリアパスポート）	しあわせ招き会、さしちぬ会、PTA等組織と一体となった教育活動の展開	○学校運営協議会	○学校評価
カリキュラム・マネジメント				○地域学校共同本部事業	○学校評議員会
				○キャリアパスポート	○一斉メールのアンケート機能による集計
				○学校HPによる情報発信	

（6）佐敷小学校スタンダード

①生活のスタンダード（礼を正す 相手の気持ちを考えて）

- 名前を呼ぶときは「さん」付けで呼ぶ
- 廊下は静かに右側を歩く
- 準備時間の過ごし方・・・トイレ、水分補給、次時の準備、教室移動
- 丁寧な言葉使いで話す「～です」「～ます」
- 「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」は学校にいる人（来た人）だれにでも、自分から進んで言う
- 「ありがとう」「ごめんなさい」をはっきり言う
- 靴はきちんと履く（ひもをきちんと結び、つぶし履きをしない）

②学習のスタンダード（時を守る 次の行動を考えて）

ア. 学習の進め方・終わり方

- ベル黙想（始業のチャイムとともに黙想開始）
- 日直が一人で号令をかける
- 「これから○時間目の学習を始めます」「お願いします」
- 「正座」「これで○時間目の学習を終わります」「ありがとうございました」

イ. 発言のしかた

- 静かに挙手する。指名されたら「はい」と返事をし、起立して発言する
- みんなが聞く準備ができたなら話す
- 自分の考えは、大きな声ではっきり言う

ウ. 聞き方

- 背筋を伸ばして話し手に体を向けて聴く（うなづく、反応する）
- 目・耳・頭・心でしっかり聴く

エ. 学習用具

- 自分の持ち物には必ず記名する
 - 学習に必要な物以外は学校に持ってこない
 - 原則として、シャープペンシルは使わず、鉛筆を使う
 - 下敷きは必ず使う
 - 線を引くときは定規を当てて引く
- オ. 家庭学習
- 学習時間のめやす 1・2年・・・30分以上 3・4年・・・40分以上 5・6年・・・60分以上

③給食のスタンダード（感謝の気持ちを持って）

- 給食準備前の手洗い（石鹸で）、身支度（エプロン・帽子）を整える
- 手順を守って、準備・片付けをする（給食当番が配膳する）
- 待っている間は読書をして待つ（すきま読書）
- 給食開始10分間を「もくもくタイム」とし、黙って食べる
- 20分で完食をめざす

④掃除のスタンダード（場を清める 「もくもく清掃」：もくもく てきぱき びかびか）

- 時間いっぱい（12：45～1：00）おしゃべりせずもくもくと働く
- 用具の後片付けまでしっかり行う。

(7) もくもく清掃（黙働）について

① もくもく清掃（黙働）に取り組む意義

学校が教育活動を展開する上で、児童の教育環境を整えることは大変重要である。学級や校舎内が汚れ、乱雑な状態では学習活動が困難であるだけでなく、児童の精神状態も悪くなっていく。整った環境の中でこそ良い教育活動は展開できる。

しかし、児童にとって環境を整える活動、とりわけ清掃活動は、教育活動を円滑にするものと捉えてなく、ただ「しないといけないもの」となっていることが多い。また、児童が取り組んだ清掃活動が、教師側から見ると必ずしも十分とは言えず、そのことが原因で児童を指導する材料になっていることも多々ある。

そこで、本校はもくもく清掃（黙働）に取り組むことにした。清掃時間、児童は自分の立てた清掃の目標を達成するために無言で黙々と清掃する。その中で「がまんする心」「粘り強く取り組む心」「人や物を大切にすること」「感謝の心」等を育てる。誰かに言われるからやる「しないといけない清掃」という受け身の意識を転換し、「自ら進んでする清掃」へと心を成長させる。さらには、その取り組みが日々の教育活動を支える力となるようにしていく。

② ねらい

- ア 児童の「しないといけない清掃」から「自ら進んでする清掃」に意識を変える。
- イ 最後まで粘り強く掃除をする心を育てる。
- ウ 清掃の行き届いていないところを見つけようとする心を育てる。
- エ 人に親切にし、物を大切にしようとする心を育てる。
- オ 教育環境を整える。

③ 活動の取り組み方

- ア 給食が終わり次第、机を後ろに運び、静かに座って待つ。
- イ 清掃開始前に黙想し、清掃に向けての気持ちを整える。
- ウ 清掃前に今日の清掃の目標を決める。（成長表を参考にする）
- エ 清掃は無言で行う。児童同士の相談や声かけも無し。自分で考えて行う。
- オ 時間いっぱい清掃を行う。（清掃終了3分前まで）
- カ 学期末や学校評価等で振り返り、評価等を行い、事後に生かす。

④ 清掃によって育てる力及び具体的な姿

学校教育目標	育てる力	具体的な姿
さいごまであきらめずにがんばるたくましい子（体育）	○がまんする力 ○粘り強さ 「がまんして、やり通そうとする力」	周りに左右されず、自分の目標達成のため、最後まで一生懸命清掃に取り組む姿。
しょうらいの夢に向かって進んで学習する子（知育）	○創造力 「次々と新しいことを見つけ出そうとする力」	人が見つけられないような仕事を見つけたり、人が考えられないような方法で清掃したり、時間いっぱい仕事を見つけたりする姿。
きょうりよくし、心やさしく思いやりのある子（徳育）	○判断力 ○規律・規範意識の育成 ○情操力 「人への優しさ（親切心）や物を大切にすること、美しい物への憧れ」	人の邪魔をしないで、清掃活動に取り組む姿。 友だちの良いところを見つけたり、お互いに気働きをして助け合ったりしながら、行動する姿。

⑤ もくもく清掃による心の成長過程について

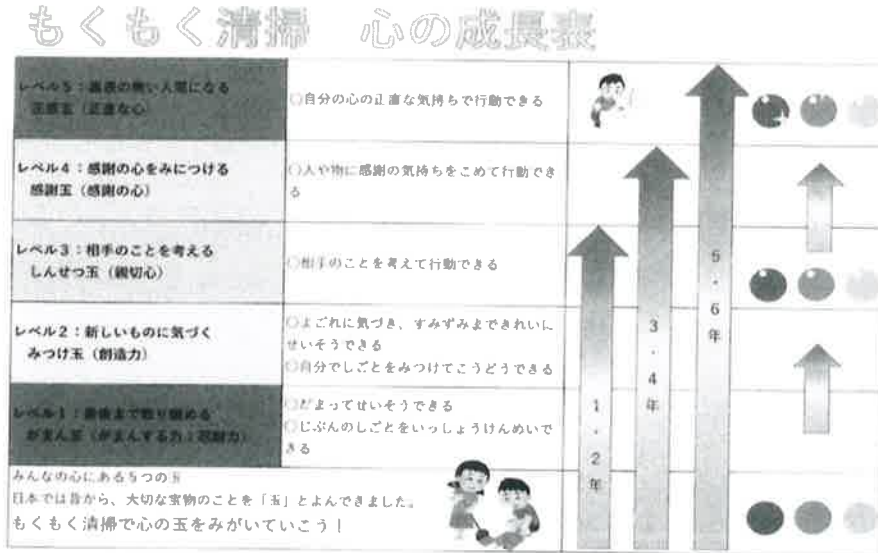
もくもく清掃のよる心の成長段階を5段階で設定する。（児童には心の宝を「玉」に見立てて指導する）

- レベル1：最後まで取り組める「がまん玉」・・・がまんする力・：忍耐力
- レベル2：新しいものに気づく「みつけ玉」・・・創造力
- レベル3：相手のことを考える「しんせつ玉」・・・情操力・親切心
- レベル4：感謝の心をみにつける「感謝玉」・・・感謝の心・情操力
- レベル5：裏表の無い人間になる「正直玉」・・・正直な心

⑥ 評価

毎学期末の振り返り、学校評価で評価を行い、事後の指導に生かす

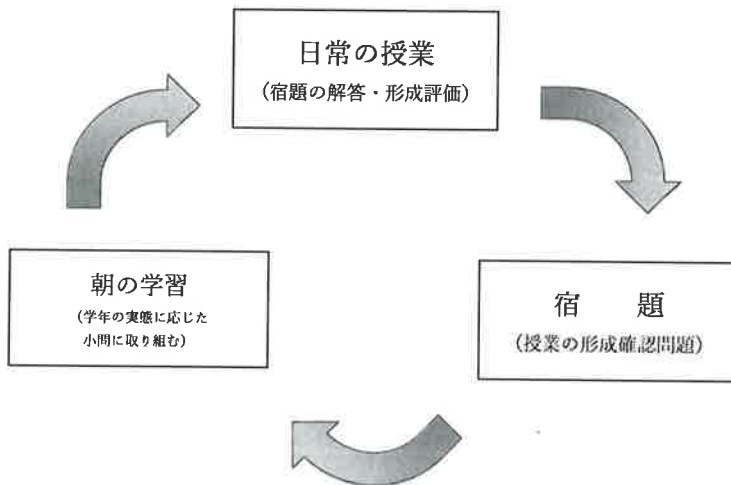
教室等掲示物（資料）



(8) 学力向上日常サイクル（令和4年度）

① 日常の学習サイクルについて

- ア 毎日、朝の学習→授業→宿題（授業と連動したもの）のサイクルで学習指導を行う。
- イ 宿題では、授業と連動した課題に取り組み、形成確認を行い学習の定着を図る。



② 学習材について

- ア 日常の授業の中で、児童に単元の学習内容を定着させるために、形成評価確認問題を出題し、授業の中で解答する。
- イ がんばりノートは基本的に、低学年では「教師が課題を与えて取り組むもの」、高学年では「児童が自主学習に活用するもの」とする。学校として目標冊数や宿題の量は設定しない。

③ 補習

各学級担任が、補習の必要な児童に対して放課後実施する。（最終下校時刻を守る）

(9) 心身共に健康なさしきつ子を育成する取組

1, 目標

本校児童の体力・運動能力の実態及び特徴を把握し、日々の体育の授業や「一校一運動」(持久走)へ向けた取り組み等を充実させることで、進んで運動しようとする意欲あふれる、心身共に健康なさしきつ子を育成する。

2, 取組

①授業の中に位置づけて行う取り組み

I, 新体力テスト調査・・・5月

体育館A:20mシャトルラン 体育館B:上体起こし・反復横跳び・立ち幅跳び・長座体前屈・握力・運動場:50m走・ソフトボール投げ 計8種目
調査結果をもとに、体力向上を図るための体育の授業を計画・工夫する

II, 水あそび、浮く・泳ぐ運動、水泳学習の実施・・・6月～

1, 2年生→8時間程度、3年生、4年生→10時間程度、5年生、6年生→10時間程度
3年生から6年生は泳力測定を行う。水泳第1時間目の泳力と、水泳授業を通しての泳力を調査する。

調査結果は次年度へとつなげ、継続した水泳指導を行う。

児童の水への慣れ及び泳力の向上にむけ、水泳指導補助員の活用を図る。

III, 年間を通じて「なわとび運動」を体育の時間に実施し、児童の持久力を育てる。

②行事を生かした体力向上への取組

I, 運動会・・・11月

児童の走力を高める運動を計画的に実施する。

表現運動に興味を持たせ、自ら意欲的に運動しようとする態度を育成する。

II, 校内持久走大会(一校一運動)の開催・・・1月

1月の持久走大会に向け、年間を通して持久力を高めるための取組を行う。

III, 特別活動(児童会活動)と体育を連動する。

児童会と連動した取り組みを行う。

③校内掲示の充実

I, 体力テストの記録や地区陸上競技大会の成果を校舎内に掲示する

取り組みの成果を承認し掲示することで、児童の運動意欲を高める。

II, 各種世界記録等の実物大を校舎内に掲示する

世界記録を見える化し、児童の運動意欲を高める。

④教育課程外における取り組み

I, 地区陸上競技大会に向けた取り組み・・・5, 6年生

放課後を使って、陸上各種目の練習に取り組みさせる。

新体力テストの記録を活用する。

II, なんじょうカップ市小学生クロスカントリー大会にむけた取り組み・・・4～6年生

3, 評価

①学校評価(児童・保護者)アンケートをもとに、児童に心身共に健康なさしきつ子になるための取り組みを充実させることができたか調査する。

②次年度の新体力テストで、児童の体力が向上したか評価する。

(10) 学力向上年間サイクル (令和4年度)

	学校の取組	校内研・その他
R3	○年度末の取組 (まとめの学習) ・既習事項の定着の確認と強化	学習ステップアップ期間 (1月～3月)
1月	○学びのたしかめテスト (11月) 結果の活用 ・成果、課題の把握	学力向上日常サイクル: 朝の学習→授業→宿題 (授業と連動) →朝の学習
2月	・課題解決に向けた取組 (授業改善) ◎県到達度調査 (2月15日) ・成果・課題の把握、分析、結果の共有	
3月	○県到達度調査の結果の活用 ・成果及び課題の把握 ・課題解決に向けた取組 (授業改善) ◎全国学力・学習状況調査 (4月19日) に向けて5学年を中心に補習を強化する。(以前の学年から復習)	
春季休業	○春休み期間中の取組 ・補習指導の実施・宿題の提供 (到達度の分析を反映)	○教科年間指導計画の見直し (重点課題挿入)
4月	学習規律徹底月間: 佐敷スタンダードの徹底 既習事項確認の徹底 ○プロジェクト部会① (顔合わせ、年間計画の確認) ○年度当初の取組 ・形成確認テストによる分析 (第1週) ・春休みの宿題点検 ・過去問の活用 (6年) ・既習事項の定着の確認と強化 (サイクルにて) ○もくもく清掃の徹底 ◎全国学力・学習状況調査 (4月19日) ・自校採点、Webシステムへの入力	年間を通しての学習規律の徹底 ○テーマ決定 ○学習指導法・ノートの書き方・教材の打ち合わせ (そろえる実践) ○佐敷小授業ベーシックの進め方の確認 ○テーマに関する理論研 (全体)
5月	○学力調査の自校分析 (学推主任) 補習へ生かす	○授業の視点自己評価まとめ (課題)
6月	○学びのたしかめテスト① (Web実力テスト) ・自校採点、Webシステムへの入力	
7月	○授業改善のポイントを共有 ○プロジェクト部会② (2学期以降の取組についての打ち合わせ)	
夏期休業	○学びの確かめテストの自校分析 (学推主任) 2学期の学習へ生かす ○全国学力・学習状況調査結果公表 ・客観的な分析、改善策の検討	○学年研; ・1学期の自己評価から改善策の検討 ・「佐敷小授業ベーシック」についての確認
8月下旬	○夏休み明けの取組 ・夏休みの宿題点検 ・既習事項の定着の確認	○校内研; 一人一授業の実施
9月	学習やる気アップ月間	○第 回主事招聘授業研 (年)
10月	○全国学力・学習状況調査結果の活用 ・成果、課題の把握 ・課題解決に向けた取組 (授業改善) 学力強化月間 (10月)	○授業の視点自己評価まとめ (最終)
11月	◎県到達度調査 ◎学びのたしかめテスト② (Web実力テスト) ・自校採点、Webシステムへの入力	
12月	○既習事項の定着の確認と強化	
冬季休業	○冬休み期間中の取組 ・宿題の提供	
R5	学力強化月間と同様の取り組みを実施する	学習ステップアップ期間 (1月～3月)
1月	○プロジェクト部会③ (次年度年間計画作成に向けて振り返りを行う)	○校内研 (今年度の反省、次年度の計画) ○教科年間指導計画の見直し (重点課題挿入)
2月	○校内持久走の取組 ○Web実力テストの結果の活用 ・成果、課題の把握 ・課題解決に向けた取組 (授業改善) ○年度末の取組 (まとめの学習) ・既習事項の定着の確認と強化 ◎県到達度調査 (2月15日) ・成果・課題の把握、分析、結果の共有	
		次年度の『学力向上年間サイクル』スタート

参考資料 もくもく清掃の手順（教室清掃）

「ごちそうさま」のあいさつが
終わったら、机を後ろによせ、静かに座っ
て、清掃時間始まりのチャイムを待つ。
(心を落ち着けて待つ)
チャイムが鳴り始めたら黙想を始め、チャ
イムが鳴りやみ次第清掃開始。

手順

①ほうきを図の①番のように縦に掃きながら進む

②ほうきを追いかけるようにぞうきんが進む
(図②参照)

③ぞうきんが終わったところから机を前によせる(1列ずつよせる)

④教室の前側の清掃が終わった時点で、ほうき係の一人が、一旦ゴミをちりとりでとる。その間に残りのメンバーが教室後ろの掃き掃除を開始する(図④参照)

⑤教室前の掃除と同じように、ほうきを追いかけるようにぞうきんが進む。その前に一旦ぞうきんをすばやく水洗いしておく

⑥ぞうきんがけの後、机をきれいに並べて終了

※清掃当番の変更の仕方は各学級の判断で行う(生活班、一人一役等)

その際、特に高学年は委員会活動や外清掃でどの程度の児童が抜けてしまうか事前に把握し、少人数で清掃をする方法を指導したり、特別教室担当の先生方と清掃の仕方について相談したりするなどの対応をする

